

中学校・道徳の内容項目の解説

自然愛・畏敬の念

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。	自然愛・畏敬の念

●解説

全体的な理解	<p>人は、自然の美しさに触れ、自然と親しむことにより自らの人生を豊かにしてきた面が強い。自然を愛護するということは、人間が自然の主となって保護し愛するというのではなく、自然の生命を感じ取り、自然との心のつながりを見いだして共に生きようとする自然への対し方である。</p> <p>畏敬とは、「敬う」という意味での尊敬、尊重と、「畏れる」という意味での畏怖という面とが含まれている。自然とのかかわりを深く認識すれば、人間は様々な意味で有限なものであり、自然の中で生かされていることを自覚することができる。この自覚とともに、人間の力を超えたものを素直に感じとる心が深まり、これに対する畏敬の念が芽生えてくるであろう。また、この人間は有限なものであるという自覚は、自他の生命の大切さや尊さ、人間として生きることのすばらしさの自覚につながり、とかく独善的になりやすい人間の心を反省させ、生きとし生けるものに対する感謝と尊敬の心を生み出していくものである。</p>
発達的な観点	<p>中学生の時期は、豊かな感受性が育つとともに、自然や人間の力を超えたものに対して、美しさや神秘さを感じ、自然の中で癒される自己に気付くようになる。このような時期に、美的な情操を深め、感動する心を育てることは、豊かな心を育て、人間としての成長をより確かなものにつなげる。</p>
指導の着眼点	<p>指導に当たっては、自然や、優れた芸術作品等美しいものとの出会いを振り返り、そこでの感動や畏怖の念、不思議に思ったこと等の体験を生かして、人間と自然、あるいは美しいものとのかかわりを多面的・多角的にとらえることが大切である。また、自然を愛し、護ることといった環境の保全を通して、有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止める心を育てることが求められる。</p>

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕	
低学年	(2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。	自然愛・動植物愛護
中学年	(2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にす。	自然愛・動植物愛護
高学年	(2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にす。	自然愛・環境保全
低学年	(3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。	畏敬の念
中学年	(3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。	畏敬の念
高学年	(3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。	畏敬の念